

学院のあゆみ

米国のメソジスト監督教会が日本に派遣した
宣教師によって創設された3つの学校をその源流とする
145年の歴史を有する伝統のある学校です。



1887年 ガウチャー・ホール



1921年頃の青山キャンパス全景 左から、新ガウチャー・ホール、大講堂（弘道館）、神学部校舎、勝田ホール



1949年 ネイティブ・スピーカーのヒュース宣教師による英語の授業（初等部）

建学の礎石

1874(明治7)年～1882(明治15)年

- 1874年 ●ドーラ・E・スクーンメーカー、津田仙の助力を得て「女子小学校」を麻布に開校
- 1875年 ●「女子小学校」を「救世学校」と改称
- 1877年 ●「救世学校」を築地明石町に移転し「海岸女学校」と改称
- 1878年 ●ジュリアス・ソーバー「耕教学舎」を築地に開校
- 1879年 ●ロバート・S・マクレイ「美會神学校」を横浜に開校
- 1881年 ●「耕教学舎」を「東京英学校」と改称
- 1882年 ●「美會神学校」を「東京英学校」に合同

青山の地に

1883(明治16)年～1900(明治33)年

- 1883年 ●ジョン・F・ガウチャーの寄付により青山に土地を購入、「東京英学校」を移転し「東京英和学校」と改称
- 1888年 ●「海岸女学校」の上級生を青山に移し、「東京英和女学校」として開校
- 1890年 ●エラ・M・ブラックストック「海岸女学校」に手芸教室開校、翌年職業部、後に東京英和女学校手芸部となる
- 1893年 ●「海岸女学校」に幼稚園を開園
●青山同窓会設立（一旦休止し、1902年に青山学院校友会を組織）
- 1894年 ●「東京英和学校」を「青山学院」と改称、
神学部、普通部（高等普通学部・英語師範科・予備学部）を置く
●「海岸女学校」を閉鎖し、「東京英和女学校」に合同
- 1895年 ●「東京英和女学校」を「青山女学院」と改称、
普通学部（高等科・予備科・普通科）、手芸部、
幼稚園（1899年閉園）を置く
- 1899年 ●「文部省訓令第12号」公布。宗教教育に支障をきたす
●青山女学院手芸部は独立し、「青山女子手芸学校」となる
（1914年青山女学院に合同）
- 1900年 ●青山女学院同窓会発足（1902年青山女学院校友会と改称）

青山学院と青山女学院

1901(明治34)年～1926(大正15・昭和元年)年

- 1904年 ●青山学院高等科・神学部は専門学校の認可を受ける
●青山女学院英文専門科は専門学校の認可を受ける
- 1906年 ●青山学院財団法人設立
（1942年に財団法人青山学院に変更）
- 1923年 ●関東大震災により、
青山学院・青山女学院の校舎・諸施設大破

昭和の激動

1927(昭和2)年～1945(昭和20)年

- 1927年 ●「青山女学院」を「青山学院」に合同
（「青山学院」は神学部、高等学部、中学部、
高等女学部【専攻科・本科】を置く）
- 1933年 ●高等女学部専攻科（家政科）は専門学校として認可され、
女子専門部（家政科）と改称
- 1937年 ●青山学院小学財団設立、「青山学院緑岡小学校」及び
「青山学院緑岡幼稚園」（1944年に閉校）を開校
- 1941年 ●宣教師に米国のメソジスト教会より帰還命令が出される
●「青山学院緑岡小学校」を「青山学院緑岡初等学校」に改称
- 1943年 ●神学部閉鎖
（男子部は明治学院神学部等と共に日本東部神学校を創設
女子部は共立神学校等と共に日本女子神学校を創設）
- 1944年 ●専門部（文学部、高等商業学部）を閉鎖し、明治学院に合同
●「青山学院工業専門学校」を開校
- 1945年 ●空襲により校舎・諸施設の大半罹災

戦後の復興

1946(昭和21)年～1959(昭和34)年

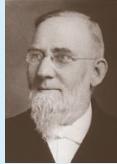
- 1946年 ●青山学院工業専門学校を「青山学院専門学校」と改称
●女子専門部を「青山学院女子専門学校」と改称
●青山学院小学財団を「青山学院」に合併し、
「青山学院緑岡初等学校」を「青山学院初等部」と改称
●米国のメソジスト教会より、宣教師再び日本に派遣される
- 1947年 ●新学制による「青山学院中等部」を開校
●青山学院専門学校横須賀分校開校
（1949年大学工学部となる）
- 1948年 ●高等女学部を女子高等部と改称（1952年に閉鎖）
●中学部を高等部と改称（1950年男子高等部と改称し1952年閉鎖）
- 1949年 ●新制大学として「青山学院大学」を開校
（文学部、商学部、工学部【翌年関東学院大学に合同】を置く）
- 1950年 ●大学文学部と商学部第二部を設置
●「青山学院女子短期大学」を開校
（家政科、文科【英文専攻・国文専攻】を置く）
（その後、児童教育学科、教養学科、芸術学科を順次設置）
●「青山学院高等部」を開校
- 1951年 ●「財団法人青山学院」を「学校法人青山学院」に組織変更
- 1952年 ●大学院文学研究科を設置
（その後経済学、法学、理工学、経営学、国際政治経済学各研究科を設置）
- 1953年 ●大学商学部を経済学部改組
- 1956年 ●青山女学院校友会を青山学院校友会に合同
- 1959年 ●大学法学部を設置

青山学院の“創業者”

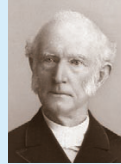
1870年代に創設された3つの学校は、
移転・校名変更・合同などさまざまな
変遷を遂げながら、1927年に男女の
教育機関としての「青山学院」を形成
します。源流の3校を開校した3名の
宣教師が、青山学院の直接的な創立
者といえます。



「女子小学校」創業者
ドーラ・E・スクーンメーカー



「耕教学舎」創業者
ジュリアス・ソーバー



「美會神学校」創業者
ロバート・S・マクレイ

草創期の“功労者”

津田 仙
青山学院の源流を創った宣教師たち
には、多くの日本人キリスト者が協力
を惜しみませんでした。その中でも最
大の功労者といえるのが津田仙です。
「女子小学校」の最初の生徒7名は、
全員津田の家族・知人であったと伝え
られています。

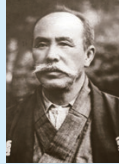


ジョン・F・ガウチャー
メソジスト派の牧師であったガウ
チャーは、草創期の青山学院に多大
な私財を投じました。財政的支援の
みならずメソジスト派の信仰のもと
づく総合大学を日本に設立するとい
う、青山学院の将来発展のビジョン
を示した人物でもあります。



青山学院という校名と本多 庸一

3つの学校は創立間もない頃に複数
回校名を変更していますが、「青山学
院」という校名は1894年に「東京英
和学校」を改称してつけられたもので
す。青山学院第2代院長であった本
多庸一の発案によるものとされていま
すが、なぜ「青山」という地域名称が
用いられたのかを明示した史料は発
見されていません。





廻沢キャンパス（世田谷キャンパス）[1965年～2003年]



厚木キャンパス [1982年～2003年]



相模原キャンパス [2003年～]

試練を越えて

1960(昭和35)年～2002(平成14)年

- 1961年 ●「青山学院幼稚園」を開園
- 1964年 ●「青山学院教育方針」発表
- 1965年 ●大学廻沢キャンパス(1971年世田谷キャンパスに改称)を開学し、理工学部を置く
- 1966年 ●大学経営学部を設置
- 1977年 ●大学文学部神学科廃止
- 1982年 ●大学厚木キャンパスを開学
●大学国際政治経済学部を設置
- 1986年 ●「青山学院高中部」(中・高6年制一貫教育)発足
- 1999年 ●「青山学院スクール・モットー」制定
- 2001年 ●大学院国際マネジメント研究科を設置

新たなる出発

2003(平成15)年～

- 2003年 ●大学厚木キャンパス・世田谷キャンパスを閉じ、大学相模原キャンパス開学
- 2004年 ●大学院法務研究科を設置
- 2005年 ●大学院会計プロフェッション研究科を設置
- 2006年 ●女子短期大学児童教育学科を子ども学科に改組
- 2008年 ●大学総合文化政策学部・研究科を設置
●大学社会情報学部・研究科を設置
- 2009年 ●大学教育人間科学部・研究科を設置
●横須賀学院との教育提携
- 2011年 ●第二部英米文学部の募集停止をもって大学第二部全学科募集停止となる
- 2012年 ●女子短期大学を大幅に改組し、現代教養学科と子ども学科の2学科制とする
- 2013年 ●大学の就学キャンパスを再配置し、4年間一貫教育体制となる
- 2015年 ●大学地球社会共生学部を設置
- 2016年 ●「横浜英和女学院中学高等学校」が大学の系属校として「青山学院横浜英和中学高等学校」となる
●静岡英和女学院との教育提携
- 2018年 ●法務研究科募集停止
- 2019年 ●大学コミュニティ人間科学部を設置
●女子短期大学本科募集停止
●浦和ルーテル学院小学校、中学校及び高等学校が大学の系属校となる

青山学院のシンボルマーク

青山学院の校章は学校ごとに独自のものが使われています。いずれも「信仰の盾(エフェソの信徒への手紙6章16節)」を共通のモチーフとしており、神の守りと揺るがぬ信仰を象徴しています。



学校法人青山学院のシンボルマーク

キャンパスの文化財建築

間島記念館

校友の間島弟彦氏の遺志を継いだ愛子夫人の寄付により、1929年に図書館として建てられました。正面にコリント式の円柱を連ねる本格的な古典主義的構成を持つ建築物で、2008年に国の登録有形文化財に登録されました。



ベリーホール

1931年に神学部校舎として建てられ、現在は学校法人の本部棟として使われています。左右対称のゴシック建築で、間島記念館と同時に国の登録有形文化財に登録されました。

